

応用編

応用編では地図を見ながら、実際に大地震が発生した時の状況をより具体的にイメージし、臨場感のある課題を設定し、検討を行います。

応用編に取り組む前に、初級編、中級編のページを参照し、あらかじめ地図を作成しておいてください。

ここでは2つの例と応用できるテーマを御紹介します。

1 応用編① 発災直後における条件付与や課題設定

進行役は、「災害が発生した」という前提条件を設定し、参加者に伝えます。参加者は、進行役が示した情報から、自分たちのまちに起こる事態を想定して、迅速に対応すべきことや、地域の防災活動についてイメージトレーニングします。これは、災害が突発的に発生したことを想定するものです。

進行役はまず、「地震発生は平日の午後△時」、「季節は夏」、「天気は雨」など、日時や季節、天候などの条件を設定します。

次に、イメージトレーニングをするための仮想上のポイント(地図上の位置)を決めてもらい、「その場所で次のことが起こったら、みなさんどう対応しますか？」などと問題提起します。

(1) 救出、救助活動の困難さを実感し、住宅耐震化の重要性を知る

<設問例>

地図上のポイントのある地域の住宅が倒壊しました。地域内の生き埋め者数を推計するとともに、どのように救出したら良いか具体的に考えてみましょう。

- ・ 1人の生き埋め者を救出するために、健常者が10~20人必要とされているため、各グループが推計した生き埋め者数を10倍して、全人口と比較すると分かりやすいでしょう。
- ・ 全人口の何割が救出活動をしなければならないのかを認識するとともに、生き埋め者数が少ないほど地域の負担も減ることを理解し、住宅の耐震化を推進します。

(2) 3分間という時間から、初期消火の重要性を知る

<設問例>

地図上のポイントで住宅火災が発生しました。近隣の住民はどのような対応したら良いのか考えてみましょう？

- ・ この設問では近隣住民がとるべき初期消火の方策を考えるものです。
- ・ 決まった答えが出なくても、3分経過したら一旦中断します。初期消火に重要な3分間がどんなに短いかを実感しましょう。
- ・ 消火栓は水圧が下がると使用できなくなることを認識し、貯水槽や自然水利の場所を事前に確認しておくことが重要だということを説明します。

(3) 負傷者の応急救護、搬送を考える

<設問例>

地図上のポイントで骨折している負傷者を発見しました。骨折している箇所は○
○です。どうしたら良いか考えてみましょう。

- ・負傷者に対してどのように対応し、どこへ搬送するのか。また、搬送先まで何分か
かるのかを認識します。
- ・地図上のポイントの最寄りの救護所における負傷者数を推計し、救護所の状況をイ
メージしてください。
- ・災害拠点病院に軽症患者が集中すると、重症患者の治療の妨げになることを認識し
ます。
- ・家庭での救護の重要性と搬送先の選定を臨機応変にすることも考える機会となりま
す。

(4) 津波の脅威を知る

<設問例>

海岸で揺れを感じました。急いで逃げなければなりません。どこへ、どのよう
に逃げたら良いでしょうか。避難先と避難ルートを確認しましょう。また、避難先
まで何分かかるのか確認してみましょう。

- ・地震の揺れを感じたときに、すぐに逃げる場所をイメージします。避難先までのル
ートを確認した上で、所要時間を計算してみましょう。
- ・避難に要する時間と最初の津波到達時間を比較してください。津波の方が早く来て
しまう場合は、避難先や避難ルートを見直してみましょう。
- ・同時に災害時要配慮者の避難はどのようにすれば良いのか考えてみましょう。

(5) 地域の連絡、通信方法を考える

<設問例>

市町の災害対策本部に、地域の被災状況報告や応援要請をしたいが電話が使用で
きない。どうやって連絡したら良いのか考えてみましょう

- ・大規模災害発生時は電話がつかない可能性が高くなります。電気も使用できま
せん。代替の通信方法を考えましょう。

2 応用編② 発災後数日を経過した場合の条件付与や課題設定

進め方は応用編1と同様です。発災後数日を経過した場合のテーマを考え、条件を付
与しましょう。

(1) 避難所の運営を考える

<設問例>

避難所に住民が集まり騒然としています。避難者数を推計するとともに、まず何
をしたら良いのか、具体的に考えてみましょう。

- ・地域の指定避難所に避難してくる避難者数を推計し、指定避難所の収容人数と比較
してみましょう。

- ・混雑する避難所の様子をイメージするとともに、誰がどのように運営するのか、生活に必要な物品はどのくらい必要で、どこから調達するのかを考えます。また、備蓄品の在庫を確認することも重要です。
- ・それぞれの役割分担(総務班、食料物資班、救護班などの班編成)の決定や災害時要配慮者の対応、ペット対策も忘れてはいけません。

(2) 滞留旅行者の避難を考える

<設問例>

駅やインターチェンジ、観光施設周辺に県外からの旅行者が集まり騒然としています。周辺地域の住民として何をしたら良いのか具体的に考えてみましょう。

- ・地域住民以外の観光客、帰宅困難者がどのくらいの人数となり、どこに避難し、誰がこの人たちを指示できるのか考えます。